

# 第 58 期 事 業 報 告 書

---

2 0 0 4 . 3 . 1 > 2 0 0 5 . 2 . 2 8

## To Our Shareholders



代表取締役会長  
廣内 武



代表取締役社長  
上村 茂

### 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。

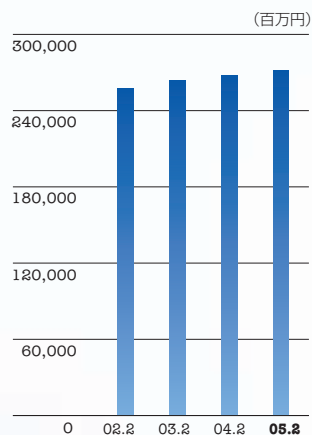
また平素より格別のご支援をいただき、心から感謝を申しあげます。

さて、当社は平成17年2月28日をもちまして、第58期の事業年度を終了いたしました。

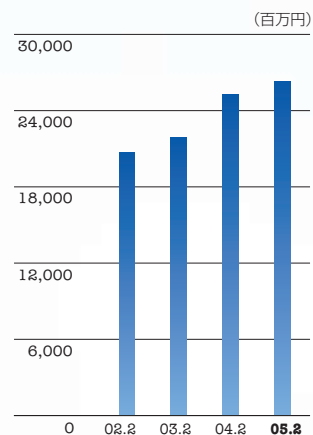
消費は依然として低迷し、ファッションビジネスも厳しい状況下にございますが、そのようななかで、当社グループは前期に引き続き着実に営業成績を伸ばすことができました。ここにご報告申しあげますとともに、今後とも「ブランド軸経営」による積極的な成長戦略を推進し、事業規模の拡大と経営基盤の強化を実現して、企業価値すなわち株主価値の向上をはかってまいります。

株主の皆様におかれましては、格別のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

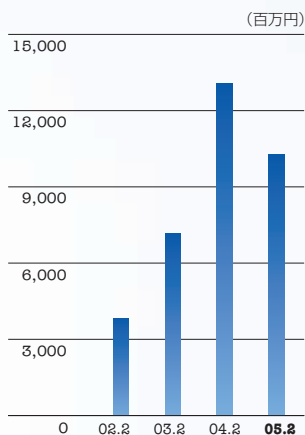
連結売上高



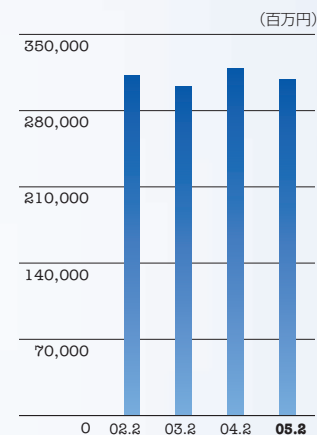
連結経常利益



連結当期純利益



連結総資産



(百万円)

	2002.2	2003.2	2004.2	2005.2
連結売上高	257,306	263,398	267,745	271,273
連結経常利益	20,712	21,897	25,243	26,283
連結当期純利益	3,801	7,157	13,053	10,256
連結総資産	312,442	302,187	318,270	308,170
連結純資産	187,039	190,754	196,796	202,376
連結 1 株当たり当期純利益 (円)	22.07	41.55	74.07	58.10

## 当期の事業環境と業績全般について

当連結会計年度におけるわが国経済は、一部の経済指標に景気回復の兆しが見られるもののデフレ傾向のなか景況感は厳しい状況が続いており、また、雇用情勢や所得水準にも改善が見られず、個人の消費マインドは高齢化社会における将来の不安を背景に依然低迷が続いております。

当アパレル業界におきましても、個人消費の低迷に加え、猛暑や台風、暖冬など天候不順による影響から、主軸流通である百貨店の衣料品売上高が水面下で推移するなど、厳しい情勢が続きました。

このような経営環境のなか、当社は「ブランド軸経営」を積極的に推進し、「23区」「組曲」「ICB」「自由区」「五大陸」「J. プレス」など大型基幹ブランドにつきましては、百貨店ベターブランドにふさわしい上質化を進め、安定的収益基盤の確立をはかってまいりました。



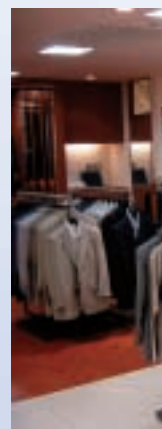
「23区」

百貨店流通では、英国高級ブランド「ダックス」メンズを今年度より新たにスタートいたしました。新売場環境でトータルショップ化を推進し、新生「ダックス」の拡大に向けて、体制を着々と構築しております。ヤングおよびヤングキャリア女性を対象とした都心型百貨店の戦略ブランド「プライドグライド」「ヴァニラコンフュージョン」も、順調に売上を拡大しております。

新しい需要の喚起策として、「スタイリッシュアップパンツ」を開発し、レディース、メンズの主要ブランドの戦略商品として、春先からキャンペーン展開いたしました。秋冬から「五大陸」「J. プレス」「ダックス」でスーツ、ジャケット、コートなどの商品を加え、「スタイリッシュアップキャンペーン」として規模を拡大して展開し、いずれも当初計画を上回る成果を達成いたしました。



「ICB」



「ダックス」

# REVIEW OF

郊外型や都市近郊型ショッピングセンターなど新流通では、「組曲ファミ」 「フィールドドリーム」 「ディップドロップス」 など、これまでファミリー層、ヤング層を対象にブランドを展開して業績を拡大してまいりましたが、今年度秋冬より新たにミセスブランド「ラ・ジュエ」を開発し、さらなる拡大成長に向けてブランド体制を強化いたしました。

以上、市況全般が低迷しているなかにあつて、当社の主軸流通である百貨店ならびにショッピングセンターなどの新流通において、「ブランド軸経営」を積極的に推進し、順調に業績を伸ばすことができました。

一方、サプライチェーンマネジメントにつきましては、需要予測から企画・生産・物流までのトータル管理を進め、「52週MD（マーチャンダイジング）」の実践により、適時適切な商品を店頭

展開する体制を整え、売上の拡大とともに収益基盤の強化をはかることができました。

なお、当社グループの事業別の状況につきましては、衣料品等繊維製品事業の売上高2,576億18百万円(前期比1.0%増)、サービス関連事業113億79百万円(前期比5.3%増)、リゾート関連事業22億74百万円(前期比24.7%増)と、いずれの事業分野においても増収となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、2,712億73百万円(前期比1.3%増)、経常利益は262億83百万円(前期比4.1%増)、当期純利益は前連結会計年度において厚生年金基金の代行部分の返上にとともなう特別利益を計上したことにより、102億56百万円(前期比21.4%減)となりました。

「スタイリッシュアップパンツ」



「J. プレス」

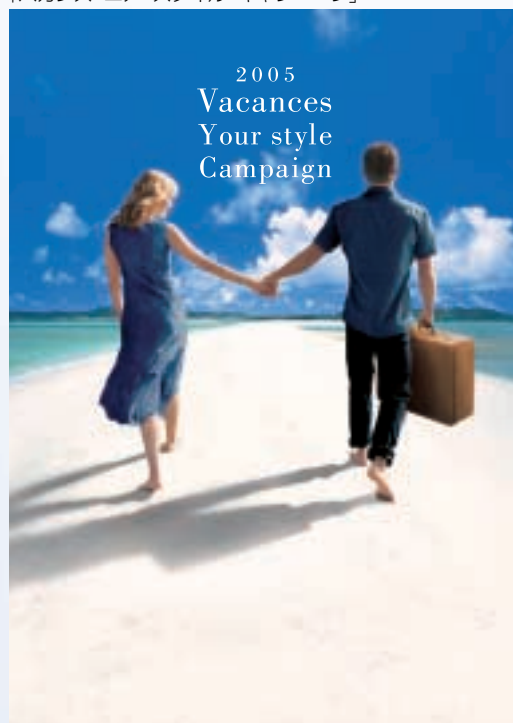
## 今後の課題と来期の目標について

わが国のファッション市場は成熟化し、グローバルな企業競争の下、消費者の選別はより厳しさを増しております。これまで消費をリードしてきた団塊世代、団塊ジュニア世代のライフステージが変化しつつあり、また流通においても、郊外型や都市近郊型のショッピングセンター、ファッションモールなど、魅力ある多様な商業集積が全国に出現しております。ファッション商品購買時期のシーズンレス化、多様な流通を使い分ける選択消費など、ファッション消費は構造的にも消費行動的にも大きな変革期を迎えております。

当社グループといたしましては、このような環境変化のなかで、引き続き「ブランド軸経営」を推進し、市場において圧倒的な競争優位性を確立してまいります。とくに「流通別ブランド戦略」を明確にしてブランドイメージの鮮明化をはかるとともに、流通別のニーズ・競合環境に最も適応するブランドの開発と展開を推進いたします。

主軸の百貨店流通におきましては、「23区」「組曲」などの大型基幹ブランドの商品企画力の強化と単店舗売上の拡大を課題に、企画・生産・営業・宣伝広告・売場環境・店頭提案の一貫体制を強化して、さらなる収益基盤の強化をはかってまいります。また、新生「ダックス」および「ckカルバンクライン」「マイケル・コース」を重点強化ブランドと位置づけ、積極的な売上拡大と安定的収益の確保をめざしてまいります。

「バカンス ユア スタイル キャンペーン」





「フェルウ」

新需要の喚起策といたしましては、「スタイリッシュアップキャンペーン」の継続拡大するとともに、大型ゴールデンウィークのバカンスニーズに向けて「バカンス ユア スタイル キャンペーン」を主要ブランド横断型で実施いたしました。

郊外型や都市近郊型ショッピングセンターでは、従来の「23区」「組曲」の派生ブランドを改編し、「フェルウ」「ドゥコンセプトラボ」「エニィファム」「エニィスイス」として新たに立ち上げるとともに、昨年秋冬より展開した「ラ・ジュー」の本格稼働をはかり、流通別ブランド戦略の最適化を推進してさらなる収益基盤の拡大をめざしてまいります。

また、ファッションビル、駅ビルを中心に、春に新ブランド「コース・マイケル・コース」を、秋冬から新ブランド「ローズブリット」を展開し、これまで手薄であったファッションビルや駅ビルのヤングカジュアル市場に本格参入してまいります。

以上により、平成18年2月期の連結売上高は2,770億円（前期比2.1%増）、経常利益は276億円（前期比5.0%増）、当期純利益は115億円（前期比12.1%増）を予定しております。

「組曲」新イメージキャラクターに藤澤恵麻を起用。



**藤澤恵麻**(ふじさわ えま)  
1982年12月26日生まれ。  
身長168cm。香川県出身。上智大学を今春卒業。2001年10月、ファッション雑誌「non-no」で応募総数約8,000人の中から選ばれ、人気モデルとして活躍。2004年3月、NHK連続テレビ小説「天花」に主演。

当社は、若い女性向けカジュアルブランド「組曲」の新しいイメージキャラクターに、ファッション広告では初めてとなる藤澤恵麻さんを起用しました。

藤澤恵麻さんは、人気ファッション雑誌「non-no(ノンノ)」でファッションモデルとして活躍する一方、2004年からは、ドラマや映画に出演し、女優業を本格的にスタート。NHK連続テレビドラマ小説「天花」ではヒロインに抜擢、「天花ちゃん」として一躍脚光を浴び、今後の活躍が期待される注目の若手女優です。

「組曲」のターゲットである若い女性が憧れるファッションリーダー的存在であり、清楚でフレッシュなイメージが「組曲」のブランドイメージに合致していることから今回の起用決定となりました。すでに2月から、ファッション雑誌やショップのカラーコルトン（電飾サインボード）、ブランドカタログ、DMなど幅広いメディアで広告展開しており、「組曲」のさらなるイメージアップに成功しています。

2005年春夏広告のテーマは「ロマンチック・ミュージズ」。光と影で演出したドラマチックな新緑の楽園で、「組曲」をまとった凛々しく、清らかな藤澤恵麻さんを表現しています。

「スタイリッシュアップキャンペーン」を展開中。

当社は、紳士服ブランドを中心に、スリムな見映えと着心地の良さを併せ持つ服作りを追求した「スタイリッシュアップ・ライン」を展開しています。

昨年は、脚が長く見えるパンツ「スタイリッシュアップパンツ」と、体が細くスマートに見える「スタイリッシュアップスーツ」「スタイリッシュアップコート」を発売し、男性向けパンツは約9万本（年間販売数）、男性向けスーツは約2万着（秋冬販売数）を販売するヒット商品となりました。

今年は、新たに脚が長く見えるデニムパンツ「スタイリッシュアップデニム」を3月から販売開始。秋冬にはセーターを加えて、細身スタイルの総合提案をめざします。







## 新生「ダックスゴルフ」のブランド戦略。

2004年12月、当社スポーツ事業本部は英国を代表するトラディショナルブランド「ダックス」におけるゴルフウェアブランド「ダックスゴルフ」の国内事業展開をスタートしました。

当初は既存の商品と店舗を引き継ぎ、2005年春夏商品からは、当社による企画、生産体制に移行した新生「ダックスゴルフ」を展開。ショップ環境は段階的に新マニュアルショップに切り替えています。

また、昨年3月にスタートした「ダックス」の国内における紳士服事業も、秋から商品企画とショップ環境を刷新した新生「ダックス」として本格展開を行っています。これに新生「ダックスゴルフ」が加わることで、新たなダックスワールドを拡大し、ブランドイメージを確立していきます。

新マニュアルショップの展開目標は、2006年春までに全国有名百貨店で80店舗を出店し、2006年度で売上高50億円（年間小売ベース）をめざします。

## レディス新ブランド「rosebullet」今秋デビュー。

当社カジュアル事業本部は、20歳代の女性を対象とした新ブランド「ローズブレット(rosebullet)」を、2005年秋から全国のファッションビル・駅ビルを中心に展開します。

若い女性の間では、セクシーさをベースにしたカジュアルスタイルが大きなトレンドとなっており、マーケットはファッションビルや駅ビルを中心に急成長。こうしたスタイルを切り口にした雑誌の創刊ラッシュも相まって、ヤングカジュアルの新たなゾーニングとして確立しつつあります。

「ローズブレット」は、「グラマラス(魅力的な)カジュアル」をコンセプトに、異性が注目する“セクシーな可愛らしさ”と、自己主張する“クールなかつこよさ”を融合した、新しいセクシーカジュアルブランドを提案。ブランド名は、バラ(Rose)と弾丸(Bullet)の合成語で、バラの花びらの柔らかさと弾丸の強さの両極を持ち合わせ、日常を制覇する女性像を表現。

販売計画は、66m<sup>2</sup>(20坪)~100m<sup>2</sup>(30坪)のショップを、ファッションビル、駅ビルを中心に、今秋冬で15店舗以上の出店を計画しています。



連結貸借対照表

(百万円)

	当期 2005.2	前期 2004.2
<b>資産の部</b>		
流動資産	150,968	165,930
(うち現金及び預金)	(81,821)	(88,099)
(うち受取手形及び売掛金)	(26,083)	(31,781)
(うちたな卸資産)	(27,410)	(26,158)
固定資産	157,201	152,339
有形固定資産	96,394	96,017
無形固定資産	2,382	2,184
投資その他の資産	58,425	54,138
(うち投資有価証券)	(17,888)	(13,113)
<b>資産合計</b>	<b>308,170</b>	318,270

(百万円)

	当期 2005.2	前期 2004.2
<b>負債の部</b>		
流動負債	79,025	92,270
固定負債	9,890	11,434
<b>負債合計</b>	<b>88,915</b>	103,704
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	16,878	17,769
<b>資本の部</b>		
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,043	49,707
利益剰余金	130,979	124,575
土地再評価差額金	△ 2,352	△ 2,372
株式等評価差額金	1,265	806
為替換算調整勘定	△ 556	△ 626
自己株式	△ 7,082	△ 5,372
<b>資本合計</b>	<b>202,376</b>	196,796
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>308,170</b>	318,270

## 連結損益計算書

(百万円)

	当期 2004.3～ 2005.2	前期 2003.3～ 2004.2
営業収益		
売上高	271,273	267,745
営業費用		
売上原価	146,447	143,920
販売費及び一般管理費	100,620	100,929
営業利益	24,205	22,895
営業外収益	3,017	3,284
営業外費用	939	936
経常利益	26,283	25,243
特別利益	940	11,495
特別損失	2,915	9,655
税金等調整前当期純利益	24,308	27,083
法人税、住民税及び事業税	7,490	13,868
法人税等調整額	4,507	△2,466
少数株主利益	2,054	2,627
当期純利益	10,256	13,053

## 連結剰余金計算書

(百万円)

	当期 2005.2	前期 2004.2
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	49,707	49,134
資本剰余金増加高	336	572
資本剰余金期末残高	50,043	49,707
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	124,575	114,790
利益剰余金増加高	10,256	13,053
利益剰余金減少高	3,852	3,269
利益剰余金期末残高	130,979	124,575

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当期 2005.2	前期 2004.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,992	30,514
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,949	△8,703
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,336	△10,847
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	△61
現金及び現金同等物の増減額	△6,267	10,902
現金及び現金同等物の期首残高	87,811	76,908
現金及び現金同等物の期末残高	81,543	87,811

## 連結子会社

株式会社インパクト二十一

チャコット株式会社

オーク株式会社

ダナキャランジャパン株式会社

バスストップ株式会社

株式会社パーソナルオーダージャパン

フリードオブロンドンLTD. (海外)

アクロストラנסポート株式会社

株式会社オンワードクリエイティブセンター

株式会社オンワードライフデザインネットワーク

株式会社ブックレット

エクセル株式会社

株式会社オーアンドケー

株式会社オンワードマリン

株式会社オンワードビーチリゾート

オンワードビーチリゾートグアムINC. (海外)

個別貸借対照表

(百万円)

	当期 2005.2	前期 2004.2
<b>資産の部</b>		
流動資産	95,894	112,706
（うち現金及び預金）	(43,632)	(53,110)
（うち受取手形及び売掛金）	(17,862)	(21,533)
（うちたな卸資産）	(20,887)	(19,914)
固定資産	149,042	135,866
有形固定資産	71,971	71,183
無形固定資産	1,934	1,282
投資その他の資産	75,135	63,400
資産合計	244,936	248,573
<b>負債の部</b>		
流動負債	44,503	55,544
固定負債	5,863	3,760
負債合計	50,366	59,304
<b>資本の部</b>		
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	51,552	50,614
利益剰余金	122,406	115,555
利益準備金	5,482	5,482
任意積立金	102,242	96,242
当期末処分利益	14,680	13,829
土地再評価差額金	△2,352	△2,372
株式等評価差額金	1,091	764
自己株式	△8,207	△5,372
資本合計	194,570	189,268
負債・資本合計	244,936	248,573

個別損益計算書

(百万円)

	当期 2004.3～ 2005.2	前期 2003.3～ 2004.2
営業収益		
売上高	197,230	184,914
営業費用		
売上原価	104,896	96,635
販売費及び一般管理費	74,348	70,416
営業利益	17,984	17,862
営業外収益	3,435	3,204
営業外費用	631	421
経常利益	20,788	20,644
特別利益	920	9,631
特別損失	3,060	12,134
税引前当期純利益	18,648	18,142
法人税、住民税及び事業税	4,847	10,521
法人税等調整額	3,152	△2,581
当期純利益	10,648	10,202
前期繰越利益	4,052	3,653
土地再評価差額金取崩額	△20	△26
当期末処分利益	14,680	13,829

利益処分

(百万円)

	当期 2005.2	前期 2004.2
当期末処分利益	14,680	13,829
任意積立金取崩額	0	0
合計	14,681	13,830
株主配当金	3,679	3,355
1株につき	22円	20円
（普通配当	20円	16円50銭）
（特別配当	2円	3円50銭）
取締役賞与金	421	421
任意積立金	6,500	6,000
次期繰越利益	4,081	4,052

# Corporate Profile

## 会社の概要

(平成 17 年 2 月 28 日現在)

社名	株式会社 <b>オンワード樫山</b> ONWARD KASHIYAMA CO., LTD
設立	昭和 22 年 9 月 4 日
資本金	300 億 79 百万円
従業員数	1,684 名
本社	東京都中央区日本橋 3 丁目 10 番 5 号
事業所	
東京店	東京都港区海岸 3 丁目 14 番 11 号
大阪支店	大阪府大阪市中央区本町 4 丁目 3 番 6 号
関東支店	東京都港区海岸 3 丁目 11 番 6 号
福岡支店	福岡県福岡市中央区大名 2 丁目 6 番 43 号
名古屋支店	愛知県名古屋市中村区名駅南 4 丁目 11 番 31 号
札幌支店	北海道札幌市中央区北一条西 16 丁目 1 番
仙台支店	宮城県仙台市青葉区上杉 1 丁目 6 番 8 号
広島支店	広島県広島市西区南観音 3 丁目 12 番 10 号
芝浦第一ビル	東京都港区海岸 3 丁目 9 番 32 号
芝浦第二ビル	東京都港区海岸 3 丁目 11 番 6 号
芝浦第三ビル	東京都港区海岸 3 丁目 14 番 11 号
芝浦第四ビル	東京都港区海岸 3 丁目 14 番 21 号
厚木物流センター	神奈川県厚木市愛甲片町 1434 番地
大阪支店・都島 オペレーションセンター	大阪府大阪市旭区高殿 5 丁目 10 番 7 号
オンワード総合研究所	神奈川県横浜市都筑区牛久保 3 丁目 9 番 3 号

## 取締役および監査役

(平成 17 年 5 月 26 日現在)

取締役名譽会長	馬場 彰
代表取締役 会長執行役員	廣内 武
代表取締役 社長執行役員	上村 茂
代表取締役 専務執行役員	馬場和哉
取締役専務執行役員	草木 勝 大沼 勉
取締役常務執行役員	大野雅丈 山根 功 吉沢正明 堀江龍二 今井 博 小林忠良
取締役	茅野 亮 本庄八郎
常勤監査役	山本昭登 大塚雄司
監査役	小川恵一 矢部丈太郎

## 執行役員

(平成 17 年 5 月 26 日現在)

常務執行役員	和田徹治 水野健太郎 清原雅文 前田 進 酒井 渉 山田博昭 伊達彰夫 奥田 彰 玉井研一郎 馬場昭典
執行役員	浦上帰作 飛田敏男 鎌苅 茂 佐藤順彦 松本秀雄 石田 博 萩平 勉 遠野栄治 原澤正好 田中 実 青山 仁 鈴木貴久 久道英雄 加賀谷和夫 野村 学 田中英信 小松光彦 吉里博一 三田寛暢 小林一仁

- (注) 1. 取締役 茅野 亮、本庄八郎の両氏は、商法第 188 条第 2 項第 7 号ノ 2 に定める社外取締役です。
2. 監査役山本昭登、小川恵一、矢部丈太郎の各氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第 18 条第 1 項に定める社外監査役です。

## 株式の状況

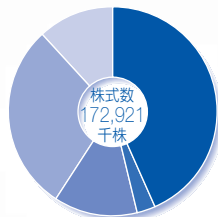
(平成 17年2月28日現在)

会社が発行する株式の総数	400,000,000株
発行済株式の総数	172,921,669株
株主数	9,069名

(注) 発行済株式の総数には、自己株式5,690千株が含まれています。

## 所有者別株式分布状況 (千株)

金融機関	74,975
証券会社	4,943
その他の法人	22,379
外国法人等	50,202
個人・その他	20,422



(注) 個人・その他には、自己株式が含まれています。

## 大株主 (上位10社)

株主名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数 千株	議決権比率 %	持株数 千株	議決権比率 %
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	17,116	10.2	—	—
日本スタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	12,159	7.3	—	—
財団法人樺山奨学財団	8,710	5.2	—	—
日本生命保険相互会社	6,227	3.7	—	—
野村証券株式会社	4,529	2.7	—	—
株式会社伊勢丹	4,309	2.5	650	0.2
第一生命保険相互会社	4,200	2.5	—	—
株式会社三井住友銀行	2,931	1.7	—	—
ザ チェースマンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン	2,841	1.7	—	—
全国共済農業協同組合連合会	2,826	1.6	—	—

- (注) 1. 株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。  
 2. 信託銀行各社の所有株式数には、信託業務に係る株式数が含まれています。  
 3. 当社は自己株式5,690千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いています。  
 4. 当社は株式会社三井住友銀行の持株会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループの株式1,083株(議決権比率0.0%)および野村證券株式会社の持株会社である野村ホールディングス株式会社の株式1,743株(議決権比率0.0%)を保有しています。  
 5. 上記の記載とは別に、当社は株式会社伊勢丹の株式10,384千株(議決権比率4.6%)、株式会社三井住友フィナンシャルグループの株式1,560株(議決権比率0.0%)を退職給付信託の信託財産に拠出し、議決権行使の指図権を留保しています。

## 株主メモ

決算期	毎年2月末日(年1回)
定時株主総会	毎年5月中
配当金	株主総会の決議により、毎年2月末日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主にお支払いいたします。
基準日	毎年2月末日 その他必要があるときはあらかじめ公告をして定めます。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 (〒100-0005) UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081) UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話0120-232-711
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社本店・全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

## 単元未満株式の買増制度のご案内

単元未満株式をご所有の株主様は、その単元未満株式の数と併せて1単元になる数の株式を当社に対して買増請求することができます。

詳細につきましては、

名義書換代理人

(証券保管振替制度で利用の株主様はお取引の証券会社)

までお問い合わせください。



当冊子についてのお問い合わせ先

**株式会社オンワード樫山**

〒103-8239 東京都中央区日本橋3-10-5

TEL.03-3272-2312